

大通公園を望む窓辺から

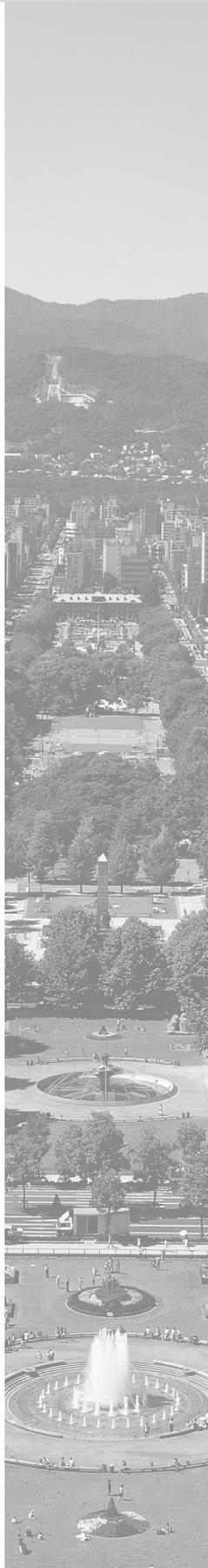
赤チン専門の医者

常任理事 櫻井 晃洋

幼かった頃の自分がいつから今の職業を思い描いたのだろうと考える時、私の場合はどうしてもあの「事件」にたどり着く。当時通っていた幼稚園で将来の夢を一人ずつ発表する会の時、順番が回ってきた5歳の私は声高らかに「赤チン専門の医者！」と叫んだのだった（今の若い人には「赤チン」が分かるだろうか）。こんな頃からレベルの低いウケ狙いをしていたかと思うと50年以上たった今でも赤面するが、そんな淡い期待は見事に裏切られ、追い打ちをかけるように、直ちに拿捕されて園長室に連行され、親にも出頭命令が下された。悪事を働かずとも人はお縄を頂戴することがある。それを幼い心にしっかり刷り込んだ私は、都心の混雑する電車に乗るときは決してベルトより下に手を降ろさない（「胸」のリスクは残るが）。

医学部に合格したときのお祝い会の写真が手元にある。会と言っても近所の親父たちの飲み会のダシである。当時のことゆえ高校生の自分も一緒に飲みつづけている。その時もらった励ましの言葉は、「事件」から12年も経っていてもまだ「赤チン専門じゃなく、まともな医者になりなさい」。考えてみれば随分トホホな祝賀だった。

大学を卒業した時点でも特に進みたい道がはっきりせず、流されるままのモラトリアム研修医だったが、多くの縁に恵まれ、新潟から松本やシカゴでの生活を経て、5年前から札幌で臨床遺伝の診療や教育に携わることになった。結局、かつて赤チン専門医を目指し（？）新潟の片田舎で育った少年は、時を経て遺伝専門医になったわけだが、幼稚園の時に思いつきで叫んだ夢は「フツの医者にはならなかった」というヘンなところで実現しているのだった。



初夢

監事 篠島 弘

今、世界ではエンジン自動車に代わって電気自動車（EV, electric vehicle）の生産にシフトしようとしています。日本ではEVに加えて、東京オリンピックに向けて燃料電池車（FCV, fuel cell vehicle）の開発が進み、昨年11月現在、全国に90ヵ所の水素ステーションがあります。しかし北海道ではコストの面からも、広域性の面からも不利な点が多いため、水素ステーションの設置はありません。EVとFCVは両者とも電気モーターを回して動くことは共通ですが、前者は蓄電池に充電して、後者は燃料電池で発電して使うことが異なる点です。

燃料電池（FC, fuel cell）は“水の電気分解とは逆の化学反応”を利用して、水素と空気中の酸素から電気を起こします。電池といえば乾電池とか蓄電池を思い浮かべますが、燃料電池は水素による発電装置といった方が理解しやすいと思います。

水素と聞くと、1937年にアメリカのニュージャージー州で起きた飛行船ヒンデンブルク号の炎上墜落事故、2011年の福島第一原子力発電所水素爆発という危険なイメージが付きまといまいます。しかしながら水素は空気よりも軽く拡散性が非常に高いため、屋外などの開放された空間では火が付くことは無いそうです。ガソリンの方がはるかに危険です。

水素は液化天然ガス（LNG, liquefied natural gas）を改質することによって作られています。この半年でLNGの価格が2倍に高騰しているとの報道があります。道北、道東では風力、太陽光を利用して水素ステーションを作り、燃料電池で動く電車が架線の無い鉄道を走っています。今年の私の初夢でした。